

2022年2月27日 説教「へり下りを受容された主」

列王記第一 21章 17~29節

アハブ王は妻イゼベルの魂胆で、ナボテを石打ちの刑にしてしまい、結果的には、欲しかったぶどう畑を自分の物にすべく動き出しました。

1. エリヤへの主のご命令 (17~19)

- ①エリヤ (17) 「そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような主のことばがあった。」アハブは妻イゼベルにナボテが死んだことを告げられ、すぐにナボテの畑をとりあげに行くようにせかされました。彼は出かけていきました。その時、ティシュベ出身の預言者エリヤに主のことばがあります。列王記第一 19章以来の登場です。
- ②主のご命令 (18) 「さあ、サマリヤにいるイスラエルの王アハブに会いに行け。今、彼はナボテのぶどう畑をとりあげようと、そこに下ってきている。」主はエリヤにアハブ王に会いに行くように命ぜられました。イスラエルの王はサマリヤにいたのです。アハブはまさに、ナボテが所有していたぶどう畑をとりあげようとしていたからです。
- ③主の厳しいお言葉 (19) 「彼にこう言え。『主はこう仰せられる。あなたはよくも人殺しをして、取り上げたものだ。』また、彼に言え。『主はこう仰せられる。犬どもがナボテの血をなめたその場所で、その犬どもがまた、あなたの血をなめる。』主のお言葉はこうでした。『あなたはよくも人殺しをして、ぶどう畑を取り上げたものだ。』と事実を伝えた後に、『犬たちがナボテの血をなめた場所で、アハブも同じように殺されて犬たちがその血をなめるようになる』という内容でした。アハブには恐ろしい内容でした。

2. アハブへのさばきの預言 (20~24節)

- ① アハブとエリヤ (20) 「アハブがエリヤに、『あなたはまた、私を見つけたのか。わが敵よ。』と言うと、エリヤは答えた。『あなたが裏切って主の目の前に悪を行ったので、私は見つけたのだ。』」アハブにとって、エリヤは仇敵のような存在です。数年前にエリヤが、雨が降らなくなるという預言をして、その通りになりました ((17章)。三年後にアハブに雨が降ることを預言するようになった時は、アハブが信じるバアルの預言者達 450人と1人で相対し、祭壇に火がつけました。また、その後には雨も降りました (18章)。その時にエリヤはバアルの預言者たちを完膚なきまで滅ぼしました (19章)。そのことを決して忘れないアハブはエリヤに「わが敵よ」とすら言うのでした。しかし、エリヤは権力者であるアハブの前で堂々と、『あなたが裏切って主の前に悪を行ったので、私がそれを見つけたにすぎません。』と一歩も引きませんでした。



- ② アハブへの災い預言 (21~22) 『今、わたしはあなたにわざわいをもたらす。わたしはあなたの子孫を除き去り、アハブに属する小わっばも奴隷も、自由の者も、イスラエルで断ち滅ぼし、あなたの家をネバテの子やヤロブアムの家のようにし、アヒヤの子バシャの家のようにする。それは、あなたがたがわたしの怒りを引き起こしたその怒りのため、イスラエルに罪を犯させたためだ。』主がエリヤに託された言葉は厳しく続きます。①子孫を除き去る。②アハブに属する者達を滅ぼす。③アハブの家を滅ぼし、ヤロブアム (北王国樹立、偶像礼拝) やバシャ (北王国第二王朝、神に背反) の家のようにする (15~16章)、というものでした。それは主の怒りを引き起こす罪の故だと告げたのです。
- ③イゼベルへの裁き (23~24) 「また、イゼベルについても主はこう仰せられる。『犬がイズレエルの領地でイゼベルを食らう。アハブに属する者で、町で死ぬ者は犬どもがこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。』」妻イゼベルも、裁かれて死体は、犬がイゼベルを食べると言われます。アハブに従う者達で、町で死ぬ者達も犬に食われると言われ、野で死ぬ者達の死体は空の鳥に食われるという恐ろしい預言でした。イゼベルに対する厳しい言葉は彼女がバアル信仰の中心だったからです。

### 3. 主なる神のお取りはからい (25~29)

- ①アハブの悪 (25~26) 「アハブのように、裏切って主の目の前に悪を行った者はだれもいなかった。彼の妻イゼベルが彼をそそのかしたからである。彼は偶像につき従い、主がイスラエル人の前から追い払われたエモリ人がしたとおりのことをして、忌みきらうべきことを大に行った。」アハブについては、激烈な言葉でした。彼が主を裏切って、悪を行ったひどさは、比較できないほどだということです。そして、妻イゼベルのそそのかされながら、エモリ人 (カナン人) がした忌むべき偶像神バアルを崇めて、推進したと弾劾されます。
- ③アハブの懺悔 (27) 「アハブは、これらのことばを聞くとすぐ、自分の外套を裂き、身に荒布をまとい、断食をし、荒布を着て伏し、また、打ちしおれていた。」エリヤを通して、主の權威に満ちた御言葉を聞いて、アハブの心に恐れがもたらされました。「外套を裂く」とか「荒布をまとう」(詩篇 30:11) という行為は、神の前の恐れ、嘆き、悔い改めの表現でありました。それに加えて、断食をして、打ちしおれていたということです。傲岸なアハブも、主なる神に立たざるをえませんでした。
- ③主の顧みに (28~29) 「そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような主のことばがあった。『あなたはアハブがわたしの前にへりくだっているのを見たか。彼がわたしの前にへりくだっているのを見たか。彼がわたしの前にへりくだっているのを見たか。彼の生きる間は、わざわいを下さない。しかし、彼の子の時代に、彼の

家にわざわいを下す。』」エリヤに主の言葉がありました。主はアハブが主の前に身を低くしている姿をご覧になり、それを評価してください、「彼が生きる間は、わざわいを下さない」と仰ってくださいました。一方では、アハブの次世代において、その家にわざわいをくだすと裁かれました。

《結論》妻イゼベルの工作でナボテを石打ちの刑にした末に、そのぶどう畑を奪い取ろうと出かけていったアハブでしたが、そこに主なる神は預言者エリヤをお遣わしになりました。アハブにとっては、事あるごとに辛酸をなめさせられてきた相手だけに、エリヤが目の前に現れた時には「またお前か!」という調子でした。そしてその予感通り、エリヤは主から預かった言葉を臆することも、容赦もせずアハブに伝えました。

アハブへの厳しい内容は彼自身とその家に対するもの、イゼベルなどに対しては、その死体を犬が食べるといった恐ろしいものでした。そして、25~26節において、「アハブのように、裏切って主の目の前に悪を行った者は誰もいなかった。彼は偶像につき従い、エモリ人のしたとおりにした」と、主への背信と偶像礼拝が悪の根本にあることを断ぜられました。「社稷」という古代中国の言葉があります。社は土地の神、稷は五穀豊穡の神と言われますが、カナン地の偶像神バアルも似ていて、天候の神であり農作物の豊穡をもたらす神で、その妻にあたるのがアシュタロテ (愛と戦争の女神) いるのですから、まことに人間的なのです。

そうした総決算として、神はエリヤを通して、アハブの妻イゼベル、その取り囲みの者達にも、断罪の言葉を告げられました。これを聞いて、アハブは恐れ、荒布をまとい、断食して主の前に出て、打ちしおれたのです。普通ならば、もはや手遅れ、赦す余地なしというところでありましょう。彼はそれほどの悪を重ねてきたからです。ところが神は、エリヤにこんなことを言われたのです。「あなたはわたしの前にへりくだっているのを見たか。彼がわたしの前でへりくだっているのを見たか。彼の生きる間は、わざわいを下さない」。アラムのハダデに滅ぼさなかったことを厳しく言われた主は、どうしてこんなに甘いと思われるお取り計らいをなさるのでしょうか。

さて時折、旧新約の神について、表面的で単純なとらえ方がされることがあります。旧約の神は厳しく正義を全うされる神で、新約の神は愛と憐みの神だというように述べられることがあります。しかし、今朝の記事を読めばそれがあたっていないことがわかるでしょう。なにしろ、主の前に彼ほどの悪を行った者はいなかったとすら言われるアハブが、へりくだりの様子を見せると、神はこれを受容されているのです。ここで、わかることは、旧約も新約も同じ主です。主なる神はへりくだって、悔い改める者を受け入れてくださ

るといことです。アハブは本当の悔い改めたのかと問う向きもあるでしょう。でも、ここではそれは問題にされていないのです。「神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。」(詩篇 51:7) とあります。神はアハブのへりくだりを受け入れられたのです。そして、即座のさばきは中止されたのです。 翻って、あなたが今、自らの罪に気づき、神の前に砕かれて、悔い改めるならば、主はそれを受け入れ、赦してください。自分で自分を裁いてしまう場合があります。

そんなことを考える前に、赦してください、助けてください、憐れんでくださいと、主の前に出て、主の赦しをいただいていこうではありませんか。